

研究所だより

第124号 令和4年5月

発行：草津市立教育研究所

「寄り添い、共に前へ！！」

草津市立教育研究所 所長 木村 弘子

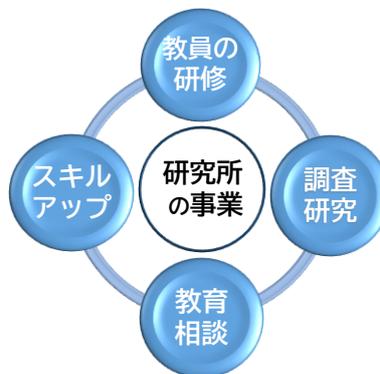
4月1日付けで、所長に就任しました木村弘子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

数年にわたるコロナ禍が、人との接触制限、コミュニケーションの遮断という大きな環境の変化をもたらし、それによって、子どもたちのメンタルヘルスが悪化していると言われています（ユニセフ「世界子供白書2021」）。元より子どもは社会の中で育まれるべき存在ですが、コロナ禍以前の生活以上に様々な要因から傷つき、不安感や無気力感に襲われ子どもの心が蝕まれている状況があります。

世の中の先が見えない時代だからこそ、他者に向き合い対話をする中で、他者の思考を理解し、自身の思考を深めることが必要であると考えます。「どのように学ぶとよいのか」「学ぶことで何が得られるのか」、また、「どのように生きると幸せになるのか」「生きていくことにどのような意味があるのか」といった「学ぶこと・生きること」についての意味を子どもたちとどう語るのかということが、問われているように思います。

「教えるとは希望を語ること。学ぶとは誠実を胸に刻むこと。」とフランスの詩人ルイ・アラゴンの言葉にあるように、今のような時代こそ、子どもと、一人の人間として、大人が未来や希望を語る意味があるはずです。

さて、教育研究所の事業は、教員の研修、調査研究、教育相談、スキルアップの大きく4つあります。学び続ける教職員への支援、不登校等学校不適應児童生徒への支援の充実に努めてまいります。



全国的に、不登校等学校不適應児童生徒が増加していますが、草津市でも同様の傾向が見られ、不登校対策を重要な課題と

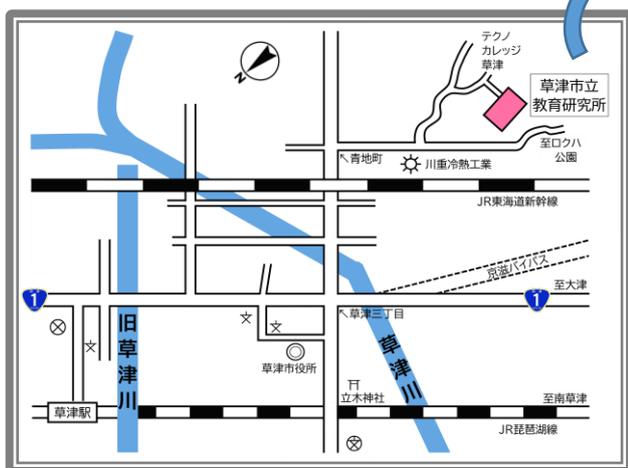
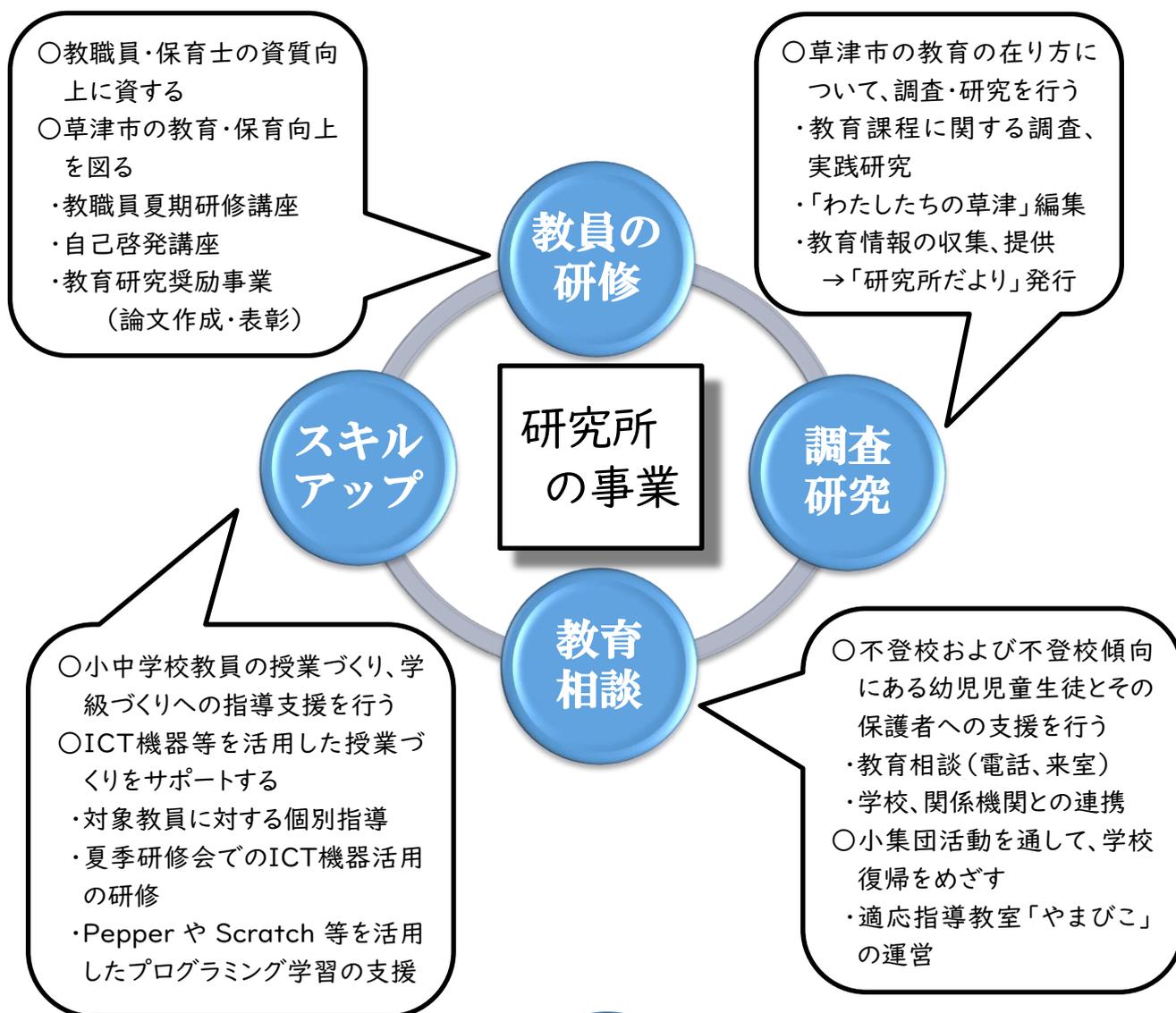
しています。当研究所では、適応指導教室等の相談事業を活性化するだけでなく、児童生徒支援課との連携を強化し、市・県のSSW派遣、効果的なケース会議や関係機関との連携のコーディネート、教育相談主任のスキルアップに向けた研修等に積極的に取り組んでいきます。また、不登校の未然防止や早期発見に向けて、教育研究所のスーパーバイザーによるモニタリングを実施し、先生方を支援していきます。お気軽にご相談ください。

最後になりましたが、不登校等学校不適應の子どもや保護者をサポートできるように、また、先生をアシストできるように「チーム研究所」で取り組んでいきたいと思っております。草津の子どもたちのために学校と連携しながら、子どもや先生方に寄り添い、共に前へ！！

皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

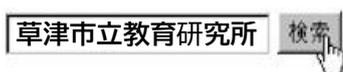


草津市立教育研究所 理念図



昨年10月より 事務室が1Fに変わりました。

※その他、ホームページも御覧ください



令和4年度 教育研究所事業紹介

研究奨励事業

- ・昨年度、小学校・中学校・幼稚園・こども園より49名の応募がありました。本年度は3部門（ステップアップ研究部門、フレッシュ研究部門、就学前教育研究部門）で実施し、教育研究のより一層の広がりを目指します。
- ・すべての所、園、学校からの応募をお待ちしています。要項をよく読んで応募してください。



研修講座

- ・夏季休業中（7/22～8/5）に夏期研修を行う予定をしています。昨年度に引き続き、対象となる受講者をしぼり、人数を抑えて行います。
 - ・夏季休業中（8/1）には、研究所にて研究発表大会を開催します。
 - ・実技を中心とした自己啓発講座も実施予定です。（体育・図画工作・音楽・生徒指導）
- ※講座内容・講師など決まり次第、詳細をお知らせします。



調査研究

【教育課程に関する調査・実践研究】

自ら「はてな」を見つけ、「やり方」を考える子を育てる算数授業
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動を工夫して～
をテーマに、研究協力校（志津南小学校、草津第二小学校、玉川小学校）にて調査・実践研究を進めていきます。

【地域教材】

- ・小学校3・4年生向け社会科副読本「わたしたちの草津」の編集委員会を立ち上げ、今年度は指導書の作成を行うための調査・研究を行います。

スキルアップ事業

- ・担当学校を訪問し、授業づくりや学級づくりなどに関する個別指導やグループ指導を行います。また、全校・学年別・教科別などの授業研究会を通して、学校全体の指導力の向上を目指します。

小学校担当

清水 康行（草津・草津第二・老上・老上西・南笠東・山田・笠縫東）
山崎 賢（志津・志津南・渋川・矢倉・玉川・笠縫・常盤）

中学校担当

木村 弘子（すべての中学校）

ICT担当

仲野 忠克（すべての小・中学校）

私たちもよろしくお祈りします！

所長：木村 弘子

指導主事：奥村 真也

研究員：杉本 久美香



教科書展示会のお知らせ

期間 6月3日(金)～7月1日(金)

火・木・土 10:00～18:45

水・金 11:30～20:15

*最終日は、～14:00まで

(日・月・祝日は休室)

場所 UDGBK(野路一、西友南草津店1階)

やまびこだより

草津市では不登校対策が喫緊の課題となっています。やまびこ教育相談室では「不登校等、学校不適応児童生徒への支援の充実」をスローガンに、SSW（スクールソーシャルワーカー）を常勤で継続配置して、市内各学校、園との密接な連携のもと、児童生徒、保護者への支援の充実、強化をめざします。

やまびこ教育相談室

さまざまな悩みを抱えている子どもや保護者は、安心できる場所で自身の思いを語り、少しずつ現状を客観視できるようになります。相談者自身が本来持っている力を発揮し、解決に向けての方向性を見出していけるよう一緒に考え支援します。



教育相談室



プレイルーム

子どもが自分の思いを適切な言葉で語れない場合、遊びなどを通して相談員との心の交流を図り、気持ちが自由に表出されるよう支援します。結果的に子どもの心が癒され情緒が安定するようになります。ここから適応指導教室へ繋げていきます。

適応指導教室

適応指導教室『やまびこ』は、学校に行きにくい状態にある子どもたちが学校復帰や社会的自立を目指してさまざまな活動に取り組みます。一昨年度から入級までの手続きが簡素化されています。



適応指導教室

スタッフ紹介



中谷 仁彦



西澤 留美子



小川 絹子



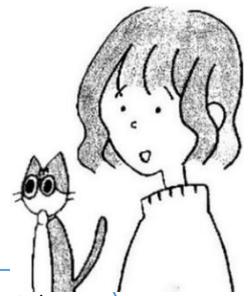
西村 奈那子



恒松 睦美(SSW)

くわしくは教育相談主任会で配布した「手引き」をご覧ください。

スクールソーシャルワーカー SSW恒松先生が語る シリーズ教育相談



SSWの先生はこんなことをされています。

- ① 学校不適応児童生徒の状況把握をし、その児童生徒が置かれた環境への働きかけを行います。
- ② 学校と関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整を行います。
- ③ 校内チーム体制の構築、支援を行います。
- ④ 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供を行います。
- ⑤ 教職員等への研修活動を行います。

福祉の専門家です！

子どもの心とストレス

新型コロナウイルス感染症のニュースが全国を駆け巡ってから2年半近くの月日が流れました。子ども達の生活も大きく変わり、その影響が今後様々な形で出てくるのではと懸念されています。国立成育医療研究センターは、全国で学校が一斉休校になった直後から1年間5回にわたって子どもや保護者へのアンケート調査を実施しました。5回目の調査では、△先生や大人への話しかけやすさが減った(51%) △すぐにイライラしてしまう(37%) △最近集中できない(32%)等、なんらかのストレスを感じている子どもは全体の70%にのぼったそうです。また、△自分や家族を傷つけてしまう(10%⇒20%)等、子どもたちのイライラ度は1年前より上がっていたとのこと。

子どもたちはこの2年半、行事がなくなり、生活に様々な制限がかかり、クラスメイトや担任の先生の素顔をほとんど見ることもないまま次のクラス替えを迎えるような日常を過ごしています。少しずつ制限が緩和されてきた今、これまで受け続けてきたストレスへの反応が表れてくる可能性も高いと思われます。

子どもの成長にストレスはつきもので、ほどよいストレスは向上心につながります。ただ、過度のストレスは心の負担になります。また、さほど強いものでなくても慢性的に受け続けると悪影響につながっていきます。子どもは自分の心の状態をうまく言葉で説明できないため、その様子を見ながら異常のサインを見落とさないようにする必要があります。

その特徴的なサインは「眠・食・遊」に表れます。

眠 寝つきが悪い、早朝や夜中に目覚める、朝起きられない 等

食 食欲不振、美味しくなさそうに食べる、好きな物を食べなくなる、過食 等

遊 大好きだった遊びに興味を示さない。遊びが長続きしない、TVを見ても笑わない 等



これらのサインが出始めると体調や言動に異変が出始めるかもしれず、早めの対処が必要です。また、ストレスから引き起こされる代表的な病気に「うつ」があります。「うつ」は脳内の神経伝達物質のバランスが乱れることによって起こる病気で、治療が必要です。子どもの「うつ」は大人のように、その症状は抑うつ感が強い、ふさぎこむ、落ち込むなどの形で出るとは限りません。むしろイライラして攻撃になる形で出ることが多く、反抗期と混同されがちです。暴力や暴言、非行、不登校、自傷行為等の問題行動の裏に「うつ」があるかもしれません。

様々な表れの裏に隠れている「見えない子どもの心」を、皆で一緒に想像力を働かせながら見極めて、巷に溢れるストレスから何とか子どもたちを守っていきたいと思います。

シリーズ

司書さんおすすめの絵本



くれよんがおれたとき／かさい まり／くもん出版

ある日、ゆうちゃんとさくらちゃんは仲良くお絵かきをしていました。ところが、ゆうちゃんがさくらちゃんの新品のくれよんを折ってしまいました。2人はなんにもしゃべらず、なんだかギクシャクしてしまいます。次の日、ゆうちゃんが新しいくれよんを渡して謝ったけど、さくらちゃんはくれよんを素直に受け取れません。

不器用ながらも友だちに対するモヤモヤした感情と向き合おうとする、子どもの心に寄り添った描写に子どもたちも共感するでしょう。



つやっつやなす／いわさ ゆうこ／童心社

暑い夏、葉っぱのあいだからぼっこんと顔を出すのは、つやっつやのなすです。なすはどんな形や色をしているのでしょうか？ながーいなすやまるいなす、あかなすやあおなす、思わず「これもなす!？」と思うくらいいろいろな種類があります。実はよく知っている野菜の中にはなすの親戚がいっぱいいます。

柔らかい絵のタッチとリズム感のあるオノマトペが効いた文章で、なすのいろいろな表情を楽しみながら野菜を身近に感じることができます。



めっきらもっきらどおんどん／長谷川 摂子／福音館書店

遊び相手がいなくて退屈していたかんたは、「めっきらもっきらどおんどん」とめちゃくちゃな歌を歌っていました。すると、穴の中から奇妙な声が聞こえてきて、のぞいてみると、かんたは吸い込まれ、やってきたのは夜の山でした。そこへおかしな3人組が「あそぼう」とかんたを誘いにやってきます。

ダイナミックな絵と想像力をかき立てる物語に一気に引き込まれていきます。絵本から幼年文学への橋渡しの絵本としても活用できます。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

